

平成 25 年度 東京都内湾水生生物調査 4 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 25 年 4 月 25 日に稚魚調査を実施した。天気は晴れ、気温 19.6~20.4℃、北のち東の風 2.9~3.4m/s で、海は静穏であった。潮回りは大潮、10 時 39 分干潮、17 時 6 分満潮であった(東京都港湾局のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

各調査地点ではいずれも、マハゼ、ビリンゴ等のハゼ科魚類の稚魚が多く確認された。

また、例年どおり、春季に河川に遡上するアユの稚魚が出現したほか、ニホンイサザアミやエビジャコ属も多く採取された。

2013/4/25	葛西人工渚	お台場海浜公園	城南大橋
作業時刻	13:00-14:15	9:00-10:10	10:50-11:50
水温(°C)	20.4	15.2	18.8
塩分	19.1	25.2	23.3
透視度(cm)	43	55	35
DO(mg/L)	5.2	7.3	5.5
DO飽和度(%)	64.7	91.3	63.3
波浪(m)	0.1	<0.1	<0.1
pH	7.9	7.8	7.6
水の臭気	カビ臭(微)	カビ臭(微)	下水臭(微)
備考			干潟では数人が潮干狩りをしていた。

●主な出現種等(速報なので、種名等は未確定です)

主な出現種等	葛西人工渚	お台場海浜公園	城南大橋
魚種 (多い順 ^注)	マハゼ(G)	マハゼ(G)	ビリンゴ(G)
	エドハゼ(m)	ビリンゴ(c)	マハゼ(m)
	ビリンゴ(m)	ウキゴリ属(+)	ボラ(m)
	スズキ(c)	ボラ(+)	ウキゴリ属(c)
	ボラ(c)	ヒメハゼ(+)	スズキ(+)
魚類以外	ニホンイサザアミ(G)	エビジャコ属(G)	エビジャコ属(G)
	クロイサザアミ(m)	ニホンイサザアミ(G)	アラムシロガイ(c)
備考	上記の他、ウキゴリ属(c)、ヒメハゼ(+)、アユ(10個体)イシガレイ(4個体)、も捕獲された。	上記の他に、スズキ(+)、アユ(6個体)、アシシロハゼ(3個体)も捕獲された。	上記の他、ヒメハゼ(+)、アユ(1個体)、イシガレイ(2個体)(m)、エドハゼ(r)も捕獲された。

注) 表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000個体以上、m:100~1000個体未満、c:20~100個体未満、+:5-20個体未満、r:5個体未満

葛西人工渚 採取試料



ゴミのように見えるのは、ハゼ科（マハゼ、エドハゼ、ウキゴリ属、ピリンゴ）稚魚およびニホンイサザアミ



調査地の様子



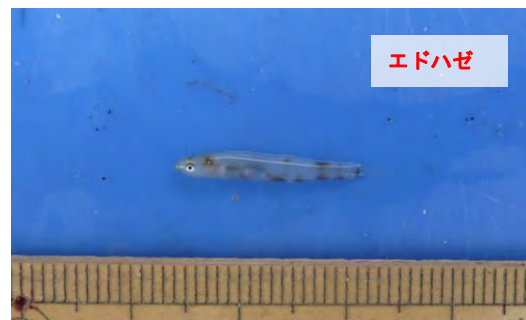
マハゼ

今回最も多く確認された稚魚。東京内湾域を代表する魚類で、釣りの対象となる。



ニホンイサザアミ

エビと近縁の甲殻類で、日本各地の内湾、河口域などの汽水域に生息する。佃煮用として漁獲されることもある。



エドハゼ

東京都内湾域に生息する希少種。葛西人工渚に多く生息する。環境省レッドリスト選定種（絶滅危惧Ⅱ類）である。

お台場海浜公園 採取試料



多くのハゼ科（マハゼ、ピリンゴ等）の稚魚およびニホンイサザアミ



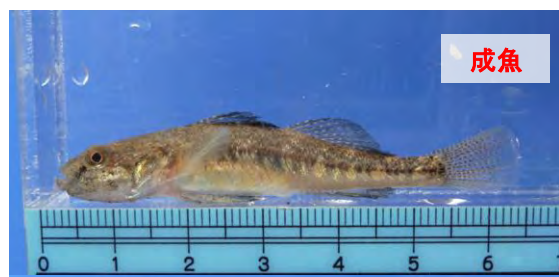
調査地の様子



選別後の稚魚等



地曳網調査の様子



成魚



稚魚

ピリンゴ



アユ

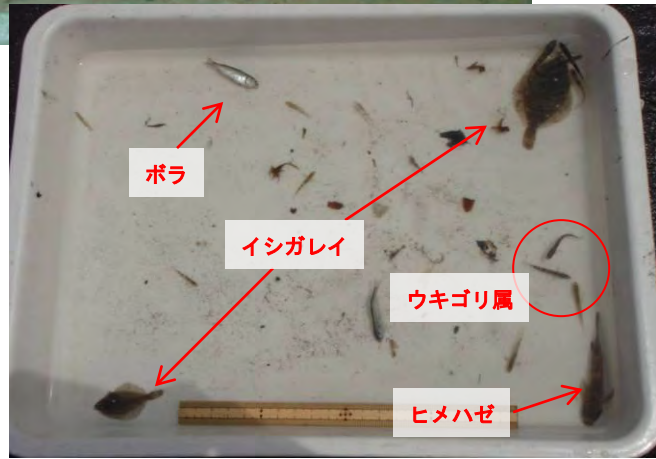
秋に河川で孵化した仔魚は海に下り、翌春まで仔稚魚期を海で送る。春に河川に遡上する。例年4月調査時に干潟に出現する。

泥底から砂泥底に生息する。岸边近くの泥底に穴を掘るか、アナジャコやゴカイなど、他の動物が掘った穴を利用して巣を造ることもある。

城南大橋 採取試料



調査地の様子



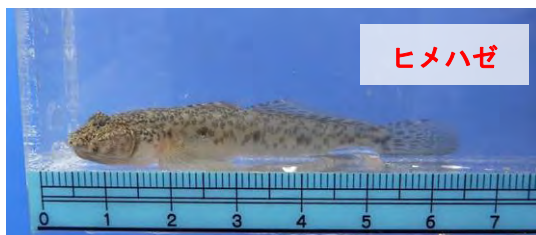
選別後の稚魚等



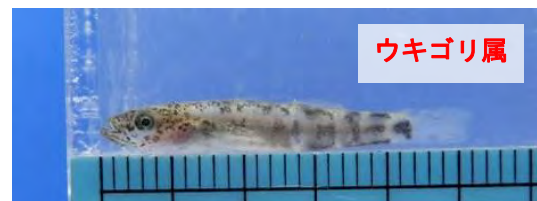
地曳網調査の様子



産卵期は12月下旬から2月。孵化した仔魚は浮遊生活期を経て、2月から3月には、調査地点である、河口域や干潟域の水深1m以浅の砂泥海底に着底する。



東京湾の干潟域の代表的なハゼである。他のハゼ類と異なり産卵期は5月から9月で、二枚貝の貝殻の中に産卵する。



河口域から淡水域に生息する。ウキゴリ、シマウキゴリ、スミウキゴリの内いずれかであるが、未成熟で計数形質での分類が出来ないため、ウキゴリ属にとどめた。